

「で、御座りましょうが」

「ア、左様か、そんなら是れは貰ふて置く、又鼻紙にでもなる、然しもし當つたら何れが當つても半分はお前さんに上げるとしとこか」

「ヘエ、半分と申しますと」

「千兩なら五百兩、五百兩なら二百五十兩、三百兩なら百五十兩ぢや」

「イ、エ、何で御座りますか、それを私が頂きますので、是は又澤山頂戴致しまして」

「コレ、頂きまして、未だ當つたないがな、當つてからの事や、兎に角熱燗にして二本程と、何でも構わん別に一鉢ほど造へて早幕で持て來とくれや、宜いか早う頼むで、これ早う仕とくれや……ア、下へ降り依つたか、ハア、うつかり法螺も吹けん、法螺を吹た爲に大事に仕て居た一步取られて仕舞た、翌日から一文無しや、マア彼の様云ふて置やアまんざら催足も仕依るまい、宜い加減に食ひ倒して逃げてやろ」

悪い人で

「旦那出来ました」

「イヤ、出来たか憚りさん、いや／＼酌仕たり給仕仕たりして呉れるとかへつて氣辛い、私一人氣根界に飲む、用事が出来たら手を叩く下へ降りてとくれ」

「どうぞ」

夫れからゆつくり酒を飲で、腹一ぱい御飯を食べてコロリと寝て仕舞ましたが、翌日早朝から起きて用事も無いのに。

「お早うさん」

「オ、旦那さん、お早う御座ります」

「亭主は如何したなア」

「一寸用事が有るので朝早うから出ました」

「ア、出たか、私も昨日主人に話を仕た二萬兩の口、是から行つて來る、いづれ歸りは夕方や、二階の部屋に何も無いがチヨイ／＼氣を付てや」

「ハイ、お早うお歸り」

「ハイ」

ポイと表へ出ましたが一文無しの空尻で行く所が無い、天満の天神さん、城の馬場、道頓堀、彼方此方を見物致しまして出て参りましたのが高津さん、なんし久し振の富と云ふので境内は一ぱいの人で押合ひへし合ひ仕て居ります、澤山な商人が店を出して居ります、正面の拜殿には檜の臺が有て三寶が乗て上には富籤の箱がデんと乗つて居ります、八位の子には巖斗目の着付けには金襴の上下を